

ほーたる こーい！

代表者 阿部真希子（工学B 2年）
構成員 平林千春（工学B 2年） 中村恵海香（工学B 2年） 生月千晶（工学B 2年）
山本竣也（工学B 3年） 水野諭（理工学M1年）
渡辺智明（工学B 2年） 小野佑太（工学B 2年）
国貞寛規（工学B 3年） 辻竜海（工学B 2年）
松本昇磨（工学B 3年）

1. プロジェクトの目的

常盤公園にホタルが多く飛び交うようなビオトープをつくる活動を行う。

2. プロジェクトの内容

常盤公園内のホタルの調査やビオトープ予定地の水路内の整備を行っている。また、ビオトープや環境に関する知識を深める活動を学外で行っている。

3. 現在までの活動状況

- ・ホタルの飛翔数調査
- ・ホタルについての発表や交流
- ・常盤公園の職員の方々との会議

主に以上3つのことを行った。

- ・ホタルの飛翔数調査

5月20日から7月17日の59日間、21時よりココランド付近の常盤湖水路から常盤公園内のゴルフ場付近の水路にかけて発光しているホタルの数を計測した。ゴルフ場付近の水路で最も多くのホタルが観察できた。ビオトープ予定地の水路では、ホタルが乱舞している様子があまり見られなかったが、水路内に生えている植物にとまっている様子は多く見られた。

このことから水路内の植物を増やすことでホタルにとって住みよい環境になるのではないかと考えた。

- ・ホタルについての発表や交流

6月8日

「粟野川と共に生きようの会」からの依頼で下関市豊北町を訪れ、下関市長、下関市立大学、「粟野川と共にいきようの会」の皆さんと地域の方々と共にホタル観賞を行い、その前に予備知識やホタル観賞についての注意事項の説明を行った。講演内容としてはホタルに関する基礎知識や山口県でみられるホタルに関する豆知識を講演した。

7月13日

福岡工業大学を、福岡工業大学のビオトープ研究会とホタゆにの相互の活動の紹介を行った。その際に意見の交換や互いの活動についての質疑応答を行い、討論を行った。その後ビオトープ研究会の先導で福岡工業大学内のビオトープにて昆虫の観察や実際の活動での問題点の洗い出しを行った。



ビオトープ研究会との意見交換会

9月23日

下関市のホタルミュージアムを訪問し、研究員の川野敬介さんにホタルや昆虫に関するお話を伺った。今までに知ることのできなかつたホタルの生態や今後ビオトープを形成する際にどういったアプローチを考えていけばいいかというアドバイスをいただいた。

・常盤公園の職員の方々と会議

9月11日に常盤公園湖水ホールにて、常盤公園動物園協会の方々とホタルの飛翔数調査の総括と今後の展望について話し合った。そこで定期的に常盤公園動物園協会の方々と本プロジェクトメンバーとの合同でビオトープ予定地周辺の生物調査を行うこととなった。また、現在の水路の形からどのように形を変えることでホタルをはじめとした種々の生物が生活できる環境でいられるのかを考えた。ここでの意見交換や今後の会議で提案した形を宇部市に提出する。

4. 今後の予定

・堰作り

常盤公園ビオトープ予定地の水路に植物を生やすために水路の流速を緩やかにするための堰をつくる。

・生物調査

常盤公園ビオトープ予定地周辺で観察できる生き物を定期的に調査する。

・ビオトープの形を提案

来年度に実際にそこでの提案をもとに現在の水路をビオトープへと改築する予定。

・福岡工業大学のビオトープ研究会を山口大学に招待

ビオトープ研究会を山口大学に招待し、実際の活動での問題点や改善点の披露を行い自分たちだけの視点では見つけられなかつた改善点を指摘してもらい自分たちの活動に活かす予定。